

# 第7回「四谷カフェ」開く

## 食品リサイクルの新たな動き紹介

複合的農業経営組織となれば、安定した農業が行なえる。

今年度最初の食品リサイクルサロン第七回「四谷カフェ」が六月二六日、主婦連合会会議室に於いて開催されました。

肥料にするのは自然の流れ。イギリス、フランスのバイオマス発電は、エネルギーを買い取るFIT制度による副収入をもたらし、この収益が農業経営安定にも繋がっている。国立研究所が発酵技術の提供をするなど、国

しかし低コストとFIT制度ありという理由で、食品廃棄物を即エネルギー化するのではなく、飼料化、肥料化、メタン化というリサイクル原料の利用優先順位を壊すことなく農業や地域に還元していくことが重要。

講師の持続性社会研究所・農業組合法人百姓倶楽部の石濱寛徳さんか

「メタン発酵によるバイオマス化」は、卸売・小売・外食業から出る鮮度

による必要な支援もある。欧州は、農家が畜産の糞尿をリサイクルする

石濱さんからは、農業への熱い思いと、日本の農業や食料にもっと関心を持ち知ってほしいという強い思いが伝わってきました。

・カロリーが低い食品廃棄物には有効なりサイクル方法のひとつです。

欧州の畜産政策では飼料は自分で栽培することが義務づけられている。

欧州と同様に、日本でも今農業で生計をたてている農家が農地を集約し、事業者として手を繋

・カロリーが低い食品廃棄物には有効なりサイクル方法のひとつです。

事により、地域のエネルギー事業者にもなり、新しい雇用も生み出している。

講演後は活発な質疑応答があり、サロン形式で楽しく学べると好評のうち閉会しました。



ので、より安価に飼料を作る方法として家畜の糞尿をメタン発酵させて

し、事業者として手を繋

講演後は活発な質疑応答があり、サロン形式で楽しく学べると好評のうち閉会しました。